

そ う ぜ ん じ 便 り

19世 俊諒和尚筆

第 144 号

令和3年春彼岸号
臨濟宗 宗禅寺
建長寺派
住職 高井和正
閑栖住職 高井正俊
羽村市川崎2-8-20
TEL 042-554-1276
FAX 042-578-3525

宗禅寺境内整備のご報告

昨年より、境内整備が着々と進んでいます。お寺の隣にセブンイレブンが開店しましたが、セブンイレブンの裏の土地も、宗禅寺の参詣者用の駐車場として、昨年購入致しました。予算の関係もあって、当面は砂利の駐車場となりますが、新しい駐車場には本堂前のお地藏さんに遷座していただき、また将来的に垣根となるよう、椿を植樹しています。さらに、地元地域の皆様方から庭石を多数ご寄付

賜ることとなり、お寺の駐車場らしく各所に設置させていただきました。また、境内・駐車場各所の桜や樺の木の老朽化が進んでおり、台風の際など、倒木となってしまう可能性もあるため、必要に応じて古木の撤去も進めております。皆様方からのご喜捨を活用させていただきます。ご意見等ございましたら、お寄せいただければと存じます。

宗禅寺境内建物 維持費のご報告

昨年末、それまで麦鉢として、一部の皆様方にご協力いただいていたお布施を、「宗禅寺境内建物維持費」として、すべての檀信徒皆様方にご協力を仰ぐ形となりました。遠方の皆様や、なかなかお出かけが難しい皆様方のために、銀行での振り込みでの納入も取り入れさせていただきました。銀行振込みでの形式は、お寺と地域という間柄においては、事務的すぎる部分も感じられ、お寺側としても導入すべきか迷うところでした。今後皆様からも様々なご意見を賜りまして、

色々と考えながら、来年度からも継続させていただきます。まずは、昨年末の境内建物維持費に關しまして、ここにご報告をさせていただきます。御協力をいただきました皆様方、誠にありがとうございました。

【宗禅寺境内建物維持費】

- ご喜捨件数 六一一件（二月現在）
- 合計金額 二百三十七萬一千圓

以上

■ 3・17〜23 彼岸早朝坐禅会。毎朝6時〜7時。予約不要です。

文化展中止のご案内

謹啓上

お彼岸を迎え、ようやく春が訪れ、陽の光も一段と暖かく、やわらかくなって参りました。皆様方には、このコロナ禍にあっても元気で、健やかに過ごすごの事と思っております。

さて、皆様方が気になさっている春の文化展ですが、宗禅寺寺子屋委員会や特別展出品の皆様と相談致しましたが、「皆が安心して気持ちよく、たくさんの方に参加していただけるようになったら」ということで、今年の春の文化展はお休み致します。皆様方には、ぜひとも次の文化展にそなえて精進されますことを期待しております。

それでは再開と再会を祈念し、早くコロナがおさまり、安心の生活が戻ってくることを願ひ、お知らせとさせていただきます。 謹白

令和三年春彼岸

医王山 宗禅寺
宗禅寺寺子屋委員会

土曜講座講演録

一本木薬師堂の薬師如来像

清泉女子大学名誉教授

山本 勉

はやいもので、もうずいぶん前のことになっていましたが、二〇一九年九月十四日に「宗禅寺土曜講座」で「仏像の話―薬師如来・運慶―」と題してお話をさせていただきました。文字どおり、仏像全般のお話を、なかでも宗禅寺薬師堂にちなんで薬師如来という仏像についてくわしくお話し、そのうえで、わたしが長年研究対象としている鎌倉時代の仏師運慶（？〜一二二三）についてもふれました。お話の準備をしているうちに、思いがけずに宗禅寺薬師堂の本尊薬師如来像と運慶とがけっして無関係でないことがわかったのは、とても興味深いことでした。今回、閑栖和尚高井正俊様から、当日のお話を原稿にするようにとお求めいただきましたので、薬師堂の薬師如来像の話にしぼって書かせていただきます。

薬師如来像

仏像のなかで「如来」が一番だいじな存在であることは、皆様よくご存じのことだと思います。「如来」とは「さとりをひらいた」存在であるとよく説明されます。古代

インドで仏教を創始したゴータマ・シッダルタは修行をして、さとりをひらき、最初の如来になりました。彼が釈迦一族の王子であったのにちなんで、それを「釈迦如来」といいます。釋迦如来に続いて「薬師如来」「阿弥陀如来」「弥勒如来」などなど、たくさんの方が考え出されます。これらは釈迦如来のように実在した人物が如来になったわけではありません。お話つまりお経のなかで考え出された存在です。

薬師如来は『薬師経』というお経で考え出された如来です。修行者であった時代（菩薩の時代）に世の人びとを救うために十二の大願を立てますが、そのなかの第七願に「除病安楽」というのがあります。病をのぞいて安楽ならしめる。申しあげるまでもなく、感染症禍に苦しむ現代にももっとも求められる願いであります。薬師如来はそれをかなえてくれる現世利益のほけとして昔からたいへん人気があります。

川崎一本木薬師堂（宗禅寺薬師堂）

いま宗禅寺境内にある薬師堂（羽村市指定有形文化財）はもともと少し離れた、多

摩川に近い段丘の上にあったそうですが、寺伝によれば、安土桃山時代、天正十一年（一五八三）に多摩川の流木一本をもって薬師如来像を造り、堂を再建したとのことで、それで一本木堂というのだというので



新開院薬師如来座像



宗禅寺薬師如来座像

す。たしかなことはわかりませんが、再建というのだから、それ以前のお堂があり、そのお堂にはもともと古いご本尊がまつられていたのかもしれない。

江戸時代の終わりの頃、文政十三年（一八三〇）に完成した『新編武蔵風土記稿』という記録では、その当時の薬師堂には「木ノ坐像長七寸許」、つまり木でできた高さ二〇センチばかりの薬師如来坐像があったといえます。ずいぶん小さな像だったのです。しかし、この像は明治三十三年（一九〇〇）に盗難にあってしまったそうです。

そのあとお堂だけが残っていたようですが、そのお堂も年々破壊が進み、戦後には堂の柱が残るのみという状態でした。そこで寺の境内に移転し、改築することが計画され、昭和二十八年（一九五三）に落成しました。本尊薬師如来像は、翌年から地元に住んでいた彫刻家島田改助が新しく制作して、昭和三十年完成。同年十月一日に開眼落慶法要が行われました。これが現在の薬師堂と本尊薬師如来坐像です。

宗禅寺像とあきる野市新開院像

ここまで、わたしは『宗禅寺の歩み』（二〇一七年、宗禅寺）などで薬師堂と薬師如来像のことを勉強してきましたが、

この本に載っている薬師如来像の写真をみて、少々びつくりしました。それは、この薬師如来像の形が、わたしがだいぶ前に調査したことのある、あきる野市・新開院の薬師如来像の形とよく似ていたからです。

新開院の薬師如来像といっても、ご存じの方はほとんどいらっしやらないでしょう。でも、この新開院像が仏像史の研究の中でも、なかなか重要な作品ではないかとわたしは思っています。この像は両脇侍像（日光・月光菩薩像）、眷属十二神将像とともに、もともとは鎌倉市の鶴岡八幡宮薬師堂にまつられていたものです。鶴岡八幡宮は江戸時代以前は「鶴岡八幡宮寺」と呼ばれ、神社とお寺が一体化したものでしたから、境内にはたくさん仏像をまつるお堂もあったのです。それが明治初めの神仏分離によって、お堂も仏像も八幡宮境内から追い出されてしまいました。新開院の仏像もその一例です。途中で修理が行われていることもあって、仏像史上の正しい位置はまだ十分に検討されていませんが、わたしは鎌倉時代、十三世紀前半の製作ではないかと思っています。作者についても、これから研究が必要ですが、鎌倉時代の初めに鎌倉でも活躍した仏師運慶の系統につながる仏師の作である可能性があります。これらの問題は今後も研究したいと思っています。

この新開院薬師如来像の衣の着け方や衣

文（衣のひだ）の形と宗禅寺薬師堂の薬師如来像のそれらが、とてもよく似ているのです。仏像を見慣れていない方にはわかりにくいかもしれませんが、日頃たくさん仏像をみて、仏像どうしを比較しているわたしたち仏像研究者にはすぐにわかります。薬師堂の薬師如来像を昭和三十年に新作した島田改助が新開院像をモデルにしたことはまちがいありません。

島田はどうして新開院像を知っていたのか、そしてどうしてモデルにしようと思ったのか、それはわかりませんが、ともあれ、かねてから新開院像に注目していたわたしは、たいへんおどろいたしだいです。こうして薬師如来のお話と運慶のお話はつながることになったのです。

おわりに

仏像の形や仏像のある場所は、過去の仏像の力を現代につなげる力をもっているはず。宗禅寺境内の薬師堂の薬師如来像は、一本木薬師堂薬師如来像の力を伝えるだけでなく、かつての鶴岡八幡宮寺薬師堂薬師如来像の力も合わせて伝えているはず。そのお薬師さまに、現在の世界を重苦しくおおっている感染症禍の暗い雲を吹き払ってくれるよう、祈念したいと思いません。

節分追儺新春祈禱法要

去る二月二日に節分の新春祈禱法要を執り行いました。

例年であれば豆まき会として、近隣のお子様の皆様が、本堂正面から豆を撒いてくれますが、本年は三密回避ということで、大々的な豆まきを行うことができませんでした。

そういった中にあっても、来山してくれたお子様皆様にお菓子のプレゼントを配ることができました。来年は盛大に行うことができればと願っております。

今年度から節分祈禱札をすべての関係者皆様に郵送ではありますがご案内させて頂いたところ、例年とほぼ変わらない三百本のお札のお申し込みをいただきました。大変有難いことで、お薬師様もお喜び下さっていると思います。

今回の節分にあたり、檀信徒の昭島の雨倉壽久様からポップコーンを、ご縁のある葉山町の稲穂様からお菓子のご寄進を賜りました。自粛自粛の暗い世相の中で、お子様たちに希望の笑顔をとの願いが込められた思わぬプレゼントをいただき、我々もお力を大いにいただきました。この場をいただきまして、御礼申し上げます。また、当日お集まり下さいました総代さん、薬師講中の皆様、ご詠歌講中の皆様にも御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

二月十三日土曜講座

宗禅寺 涅槃会（ねはんえ）

二月十五日がお釈迦様のご命日ということで、今年も土曜講座にて涅槃会を行いました。

檀信徒でもある太田博子さんがハープを演奏して下さい、近所のルーテル教会の前の牧師さん、高井保雄先生の講話をいただきました。

お寺の本堂にハープの音色が見事にマッチして、別世界に導いて下さいました。

高井牧師はすでにルーテル教会を定年退任されたそうですが、現在も羽村に在住されているそうです。ルーテル幼稚園の園長としての活動を通じて、古くからある、羽村の教育的風土についてもお話して下さい、キリスト教と親鸞聖人の教えの共通性など、興味深い内容となりました。

長野県から来て下さる予定でした絵解き師の岡澤恭子先生は、残念ながらご承知の情勢により来る事ができませんでしたが、また来年皆様とお会いしたいとお心の込められた直筆のお手紙をいただきました。

涅槃会は毎年行う予定でおります。是非一度お立ち寄りいただければ有難いと存じます。

劇団・水族館劇場

新春「さすらい姉妹」公演

年明け早々の一月三日、宗禅寺境内にて、劇団・水族館劇場の野外劇「さすらい姉妹」の公演が行われました。

正俊和尚の鎌倉からのご縁にて、コロナ禍にあつて、劇団の活動も停滞している中で貴重なご縁をいただいたことを、劇団側から厚い御礼をお言葉をいただきました。

宗禅寺裏の駐車場にて、二週間程の公演を計画していますが、慎重に判断していきたいと思っております。



お寺のみんなの相談室 ハムサ

昨年6月から、禅センターの一室をお借りして対面のお悩み相談をやらせていただいています。

【どうやってご相談？】

この相談室では、心理カウンセリングとタロットリーディング（カードからのメッセージを読み解くこと）を掛け合わせたハイブリッドなメソッドでご相談に応じます。・と言っても、何だかよくわかりません。・と云って、「タロットって占いじゃないのですよね。」「タロットって占いじゃないの？」「お寺で占いやってるの？」そんな声が聞こえて来そうです。

確かに、タロットは占いの道具として知られていますが、元々は占いのために作られたのではなく、より良く生きるためのヒントとして一冊の書物に文字で著す代わりに七十八枚のカードに図像で表した「心の成長物語」なのです。この相談室では、「カードを相談者さんの心理を表現する道具として用いて、自分自身のことを知るために役立てている」という訳です。

基本的に相談内容に制限はなく、誰にも言えないでモヤモヤしていることを話していただくことに意義があると思っています。こちらから一方的な答えを提示するのではなく、相談者さん自身が絵を見て選んだカードをもとに、モヤモヤを言語化することによって気持ちを整理され、進むべき道が明らかになる為のお手伝いができればと思っています。

【相談室から見えるもの】

相談室を始めてからこれまで約9カ月の間に、50名ほどの相談者が来室されました。ほとんどが女性ですが、男性も数名おられました。年齢や職業は様々で、派遣社員、自営業、公務員の方もいらつしました。ご自身の相談ではなく、お子さんについての相談も複数ありました。悩みというほどではなくとも背中を押してもらいたい、という方もおられます。仕事上の問題とプライベートな人間関係の問題を同時に抱えていることが多く、更にコロナの影響で問題が深刻化していることが多く見受けられます。

色々なご相談の中でも、私が特に気になるのはパートナーの問題です。今現在、配偶者もお付き合いしている人もいないシングルの方のご相談がとて多く、パートナーがいらないことによる将来への不安をなんとか克服したいとみなさん真剣に考えていらつしています。しかし、そのような『男女の出会い』に対しても、コロナによる障害が発生していると感じます。

例えば、外に出掛けることが抑制されているので、異性とのリアルな出会いのチャンスが激減しています。社内恋愛の機会もリモートワークで減っていることに加え、出会い系のマッチングアプリが普及してきたことが合わさって、バーチャルな出会いしか選択肢がないような状況が多く見られます。その結果、アプリで出会うのは簡単だけれど、出会った相手のことを信用できないからどうすればいいのかわからない・といった奇妙な現象が生まれています。

それから、人生に生きる意味を見いだせ

ないというような深刻なテーマも時々あります。そんな時にはできる限り傾聴を重視して、相談者さんの心に寄り添うことに努めますが、内心では和尚さんに助けてもらいたいと思うこともあります。

【活動の意義】

私がお寺でこのような一見怪しい対面の相談室をやらせていただけるのも、和尚さんやお寺の皆さんの深い理解があるお蔭ですが、お寺でやっているということが相談者さんにも安心して来室していただける要因なのではないかと思えます。

最後に、なぜ私がこのような活動を行っているのかをお話しさせてください。私は、一人一人の心の安らぎがこの世界の平和をつくるのではないかと思うのですが、目に見える論理的な手法だけではどうにもならないことに対して、目に見えない怪しい世界の力も借りながら（本当は、潜在意識の力と言うべきですが）少しでも悩んでいる人のお役に立てればという思いがあります。

それと同時に、私自身の学びと成長のためでもあります。普段はオンライン上でお悩み相談をしているため、対面だからこそ得られる気づきが沢山あって勉強になります。

またコロナ禍において、直接話ができる場を開いていることに大きな意義があると思っています。その為にできる感染防止策は徹底して行っております。

【ご案内】

毎週日曜日の午後開催 完全予約制 無料
問合せ：090・6792・4784 ハムサ

文庫長だより 島田 秀男

江戸時代の天明年間は、「天明の飢饉」といわれるように、天変地異がつづき、全国的に凶作にみまわれた時期でした。弘前、八戸、盛岡、仙台、相馬の各藩を中心に30万人もの餓死者が出たともいわれています。

多摩地域でも天明三年（一七八三）九月、浅間山の大噴火による降灰や冷夏によって不作がつづき、農民に深刻な影響をあたえていました。このようなことから、幕府は村役人が立ち会って雑穀の貯えを調べて今年の夏までの必要な分を残し、余分を市場で売り払うようにとのお触れを出しました。しかし、近在の豪農たちは談合して市場や農村の雑穀を買いあさって、それを売り惜しみにしていたのです。

江戸時代中期以降になると商品流通が発達し、農村内部に新たな商人（在方商人とか在郷商人といいますが）が登場します。年貢が金納となる畑作地域では、生産力を高めようとすれば、自給の肥料ではまかないきれず、大量の糠（ぬか）などを在方商人から購入しなければなりません。一方、在方商人たちは、肥料を安く仕入れて需要の多くなる時期に高く売りつけ、その購入代金も農民に貸し付けて利息を課すといった二重に利益を得ていたのです。

羽村の名主宇助、太郎右衛門と組頭伝兵衛の三名は、この状況をなんとか解決できないものか相談しました。在方商人を相手に幕府に訴えることもできましたが、当時の訴訟は、判決が申し渡されるまで数年かかることもあり、また費用も百両からの大金を工面しなければならぬ場合もありました。そこで、組頭の伝兵衛は「我ら老衰の身七十あまりに及び候えば、もはや今生に生きすぎ

たり。我々頭取して諸人の難儀を助けん」といい、宇助は、村々へ人集めの書付をくばり、買い占めの商家を打ちこわそうといい、さっそく村々に配布する趣意書の作成にとりかかったのです。

その趣意書には、庶民の難儀を救うため、天明四年（一七八四）二月二十八日、箱根ヶ崎の狭山池に集合するようにと書かれ、多摩、入間両郡四十カ村に配布されました。当日狭山池には、二、三万人の人が集まってきました。農民たちは、それぞれに鎌や鋤などの農耕具を手に、いつのまにか「山王前」という声があがり、一斉に文右衛門の家をめざして動きだしたのです。文右衛門は中藤村（武蔵村山市）日吉神社の前に住んでいて、屋号が「山王前」だったので、文右衛門は、穀類・肥料・酒造業を営む在方商人で、一八世紀後半には所有する田畑・持高とも中藤村随一となっていました。一揆勢は、その後高木村（東大和市）の庄兵衛方を打ちこわします。この時、打ちこわしにあった家は、文右衛門家を含め五軒でした。明けて二月二十九日、一揆勢はちりぢりに去っていったのです。

打ちこわしにあった文右衛門ら五軒の者たちは、さっそく幕府へ訴えます。幕府の取り調べの結果、総勢六三名が捕らえられ江戸に送られました。羽村では一二名、川崎村では二名ものが捕縛されました。取り調べののち、ゆるされた者は、羽村では、小源太、源藏、彦右衛門、川崎村では、半七、新六で帰村し村預けとなりました。吟味中に、牢屋で病死した者が多かつたといわれています。百姓一揆は、たくさんの犠牲をほらつたことからのちに義民として語り伝えられ顕彰されることとなります。

天明四年から一一〇年後、明治二十七年（一八九四）四月、禅林寺境内に「豊饒碑（ほうじょうのひ）」を建立します。西多摩村の有志と一揆に関係する子孫たちが、その行為を「義拳」としてたたえたのです。

この打ちこわしについては、『天明年間東国変乱覚書』のなかの「武州村山大変次第之事」（『羽村町史史料集第五集「天明一揆史料」所収』）に詳しく記されています。この資料を読みますと、羽村の村役人たちが事の起りをつくつたとはいいいながら、狭山池に集合した人々に先頭に立つべき人物も存在せず、自然と在方商人の家へ打ちこわしはじまったのです。この一揆は、組織だった計画性があったものではなかったのです。

熊川村の名主弥八郎は、同じ年の二月の日記に村内から騒動に参加者を出さないよう働きかけたり、また打ちこわしを、誠二前代未聞の有様であると記しています。一夜にして各地に配られた決起呼びかけの趣意書に、近郷の村役人たちの受け止め方はさまざまだったのです。

天保十一年（一八四〇）、庄内藩（山形）酒井氏の国替えに、領民たちが転封反対騒動をおこします。結果的には、百姓たちの要求がうけいれられて、幕府は撤回します。この一件を題材に、藤沢周平は『義民が駆ける』という歴史小説を書いています。藤沢は山形県鶴岡市生まれで、「百姓たりといえども、二君に仕えず」を旗印に闘った百姓を義民とした美談を子どもころから聞かされて、なぜか「不愉快」であつたといいます。しかし、書き終わってみると、この一揆に対する感想は別なものが加わり、「義民佐倉物五郎の明快さと直截（ちよくせつ）さはない。醒（さ）めている者もおり、酔っている者もいた。中味は複雑で、奇怪でさえある。このように一面的でない複雑さの総和が、むしろ歴史の真実であることを、この「義民」の群れが示しているように思われる。」（中公文庫版あとがき）と述べています。

天明の打ちこわしも、「歴史の真実」がどこにあるか、発端から終息するまでの過程をつぶさに把握しておく必要があるのかもしれない。

《参考図書》『石川酒造文書第一巻』『はむらの歴史』。

和正和尚日單

○元旦 除夜の鐘は例年の半分の人出でした。平安な一年になることをお祈り。

1/1

○谷中 恒例の山崎家親族新年会は中止も、私は妻ルリカノと四人で帰省、墓参。両親、兄弟夫婦と過ごす

1/2

○水族館劇場野外劇 宗禅寺境内で「さすらい姉妹」公演。私もゲスト出演。自分のだけでなく、前後のセリフも覚えないういけないので、浮足立ちました。メイクも施し、何とか形にはなってくれたか？

1/3

○総代さん新年会 例年の総代さんとの新年会。例年通り本堂と一緒に読経。宴会ナシでお弁当。

1/6

○坐禅会初め コロナありとも、坐禅会、写経会は参加者ご自身の判断で継続しています。マスクしながら坐禅。

1/9

○出初式 消防出初式は中止となりました。

1/10

○幼稚園 始業式。今日から最後の幼稚園生活。ルリカノ元気に登園

1/11

○久しぶりに夫婦でお出かけ。日の出モールで映画。平日ということもあってか映画館ガラガラ。

1/18

○宗禅寺規則認証 宗禅寺規則の規則変更の認証が完了。管轄の東京都から書類が届く。収益事業の項目追加、総代会の人数変更、一部文言の削除、責任役員の履歴掲載。手続きを始めてから一年は経過。長かったです。次は法務局で登記手

続き。

○幼稚園お遊戯会 お遊戯会鑑賞。例年は一日で行われていましたが、コロナのため組別で一日一組。ルリカノクラスが違うため、連日幼稚園で劇鑑賞。

1/20

○東小就学説明会 入学前の説明会に夫婦で参加。体育館寒い…。同級生約六十名二クラス。

1/26

○寺子屋委員会 月一回の勉強会。中野喜一さんの原稿「俳句懐古」、「新明神社社殿改修記念誌」、雨倉久治郎さんの資料を読む。

1/27

○土曜講座 羽村の野鳥と羽村の観光。私は法然上人。

1/30

○節分新春祈禱 立春節分を迎えて、薬師堂で安寧祈禱法要。総代さん、薬師講の皆様と。集まって下さった子供たちにはお菓子のプレゼント。豆まきは薬師堂からのみ。おかげさまでお札も三百本お申し込みをいただきました。ありがとうございます。

2/2

○節分お札 羽村・福生市内に直接お届け。不在のお家には、ポストに投函。

2/3

○訃報 立川西砂の林泉寺、山内玄黙和尚さんご逝去。龍沢道場の大先輩、三島時代からお世話になりました。弔問と葬儀の準備手伝い。林泉寺は新田開拓民の菩提寺。奥多摩街道の中里家からの開拓移民です。

2/10

○下見 映画出演の女優さんがお寺を下見。宗禅寺で映画の撮影があります。

2/11

○浅草海禅寺 林泉寺さんの葬儀の導師お願いのため、浅草に後藤榮山老師を訪ねる。正俊和尚と草花陽向寺さんと。

2/12

○土曜講座 お釈迦様のご命日の涅槃会を

土曜講座で行う。檀信徒の太田博子さんのハープ演奏と、近所のルーテル教会の前の牧師さん、高井牧師のお話し。ハープの音色が本堂に響きました。

2/13

○林泉寺通夜葬儀 山内玄黙和尚さんの通夜と葬儀。立川の火葬場は人数制限がありました。

2/17

○法務局 宗教法人の目的変更登記手続き完了。登記手続き完了届けを東京都へ提出。

2/18

○春の文化展 文化展中止のお知らせの葉書を作成、投函。来年に期待。

2/19

○書道 一月お休みしていた和尚さんの書道教室再開。書初め。

2/22

○映画撮影 宗禅寺で時代劇映画の撮影。お寺の江戸時代の建物が活躍、松平健さんやってきました。撮影後、一緒に写真。サインをいただき。秋原北胤監督は三月土曜講座で講師としてお話しして下さいます。

2/25

○慧光 慧光春の彼岸号の原稿の締め切りを失念。印刷屋さんからの電話を受けて急いで書きあげる。

3/1

○寺子屋委員会 雨倉久治郎氏が書き残してくれた『歴代系統鑑 全』を見る。川崎各家の代々のご当主のお名前、住所の地番、旗本の区分などが各家ごとに書かれてあるものです。

3/1

○宗禅寺 谷中の両親来山。小学校入学祝いの鉛筆等を持ってきてくださいました。ありがとうございます。

3/2

○林泉寺 林泉寺さんの関係で朝から各所挨拶回り。本山建長寺と本寺五日市広徳寺へ。和尚さんの奥様、檀家総代長さん、新町東禅寺和尚さんと。

3/3

正俊閑栖未完成日記

皆さん、お元気で過ごすごですか。元気の源は、体と心です。体と心を気遣って、日々健康にお過ごし下さい。宗禅寺の来山者は昨年一年間で一万五千三百人でした。コロナ禍で一昨年より七〇〇〇人減りました。コロナ恐るべしです。

【二月】来山者千人。体重は六十一キロ代

- おだやかな元旦。お年始の方百人。おいでいただいた方に宗禅寺絵馬奉呈 1/1
- 冷たい日。お年始一三五人。 1/2
- 水族館劇場「さすらい姉妹」境内野外劇。百人の聴衆。和正住職出演。お年始の方一三〇人。 1/3
- 総代さん方へお年始に行く。 1/4
- 朝粥坐禅会。六人来て下さる。 1/10
- 写経の会始まる。十三人。 1/11
- 柳建宗禅士来山。種々相談。本贈呈 1/12
- 体重計と読書スタンド購入。 1/13
- 大船塩之入内科検診。健康体操 1/15
- 大和園。西駐車場植栽。風景一新 1/18
- 写経の会九人。一人一人スピーチ 1/21
- 本堂裏、倉庫片付。あちこち開始。 1/23
- 本堂内陣太鼓移動。種々工夫 1/25
- 日々の生活リズム完成。食事量減。 1/26
- 片付け、奥倉庫・内陣。 1/27
- 本堂内陣、廊下、物置片付終了。松岡伸一『明治維新の意味』読了。 1/28
- 正道老師「達磨図」「阿弥陀如来」「東大 国写仁王様」本堂裏廊下東に。 1/29
- 土曜講座。和正住職、多摩の野鳥関根常

貴・羽村俊夫。羽村の観光、田中繁生。二十二人の来山。やってよかった。1/30

【二月】来山者七五八人。体重六一キロ代

- 朝三時に起床。体操・おつとめ・勉強・掃除・坐禅三十分・勉強・朝ドラ・八時半朝食。日中。夕方w。八時就寝の生活がほぼ完成。ありがたいです。
- 書院の部屋。ざぶとんから椅子席にチェンジ。お年寄りが楽に坐れるため 2/1
- 今年の節分は総代・薬師講参加者で、薬師堂のみで行う。来山者には福豆、子供さんにお土産。それでも二二五人の来山。お札奉納者三三〇札。関係者ににちなんの節分折詰奉呈。 2/2
- 東屋二階、整理整頓にかかる。 2/4
- 淑子さん、歯抜き元気なし。心配 2/5
- 昨年植栽した椿に水やり。 2/6
- 椿水やり。水族館劇場の方々と今後の取り組みの相談。状況を見ながら。 2/7
- 大船で鎌倉塾の役員会。塩之入内科。『鬼才・斎藤十一』森功、読了。 2/7
- 砂川・林泉寺山内玄黙和尚遷化。 2/9
- 薬師堂左右中物入片付け。夕刻、砂川林泉寺、玄黙和尚ご遺体迎え。 2/10
- 田沢園川嶋さんと桜の植栽場所確認。総数六十五本。山崎保彦『LOG・BOOK』読了。新鮮で面白い。 2/11
- 浅草・海禅寺へ。後藤榮山老師に林泉寺津送の導師依頼に参上。 2/12
- 土曜講座。お釈迦様の涅槃会法要。御詠歌を全員で奉詠。太田博子さん昨年と同じくハーブ演奏して下さい。なにかホッとしました。和正住職の親鸞聖人。ルーテル教会高井保雄前任牧師の中里介山とルーテル教会、ルターについて、強く感銘再登場を依頼。二十人の来山。ありがたい

いす。 2/13

○星野造園。東墓地入口左のさざんかの生垣撤去。狭い境内を広く見てもらうために、景色一新。 2/14

- 星野造園。片付け多種―蓮鉢。石臼、飛び石、メダカ水槽。梅林さん父子、東屋物置の物、新倉庫に。東屋外観、新築時にもどってすっきり。 2/16
- 林泉寺・玄黙和尚通夜。帰山後、私の七十五歳の誕生日ケーキ。 2/17
- 林泉寺・玄黙和尚の葬儀。関係者のみ。 2/18
- 薬師堂内保存の古い仏具を清掃 2/20
- 写経の会十二人。一人一人スピーチ 2/21
- 三島龍沢僧堂。後藤榮山老師へ林泉寺津送導師の御礼に参上。奥様と娘さん、東禅寺滝本和尚、石屋の田中さんと。 2/22
- 禅堂奥物置・本堂裏物置片付け。花御堂、曲泉などの移動、すっきり 2/24
- 寺にて映画の撮影十八人。松平健さん来山。秋原正俊（北胤）監督。 2/25
- 客殿屋根裏部屋、収納物全て降ろし、整理整頓。きれいになる。梅林父子。 2/26
- 本坊健二さん、金魚鉢のステンレス製フタを作成十八個。青鷲よけ。 2/27
- 渋谷。マノワールディノで閉店食事会。次に横浜歴史博物館で、「禅林の仏像展」を見る。山本勉先生ご案内。 2/28
- 寺子屋教室。雨倉久次郎瞻写、川崎村『歴代系統鑑』を読み始める。江戸時代の川崎村の基本構造解明へ。 3/1
- 谷中興禅寺の和正和尚のご両親からルリカ・カノンの入学祝いをいただく 3/2

土曜講座のお知らせ

コロナに警戒しながら、勉強を続けています。人から歴史から学びを!! どなたでもご参加できます。予約不要、お茶代三〇〇円です。

◆第五十三回 四月十七日(土) 十三時〜十六時
【中里介石忌】

・中里介石忌——皆でお経を唱えます——
・講談「大菩薩峠—裏宿七兵衛と宇津木兵馬—」
講談師 菊地 玉雲 さん

・仏教講座「日本仏教史—日蓮上人—」
住職 高井 和正 さん

・私のしてきたこと「お菓子と教育」
雨倉 壽久 さん

・中里介石をめぐって
宗禅寺文庫長 島田 秀男 先生

◆第五十四回 五月二十二日(土) 十三時〜十六時
・仏教講座「日本仏教史」
住職 高井 和正 さん

・十三年間の議員生活を振り返って
元市議会議員 瀧島愛夫さん

・新たなパンデミックの時代に
東京芸術大学教授 毛利 嘉孝 先生

◆第五十五回 六月十九日(土) 十三時〜十六時
・仏教講座「日本仏教史」
住職 高井 和正 さん

・唐茶碗曜変天目と美女
日中比較研究家 法政大学講師 彭 丹 先生

・地形と歴史で読み解く水都・東京
法政大学名誉教授 陣内 秀信 先生

◆第五十六回 七月十日(土) 十三時〜十六時
・仏教講座「日本仏教史」

・残念なことに今年一月から三月まで、休講していましたが、四月から再開します。予約不要、入山料五〇〇円、資料代五〇〇円。会場は鎌倉建長寺です。

公開講座・鎌倉禅研究会

・自分の死後をどうするか 住職 高井 和正 さん
・彩プロダクツ代表 大西 克幸 さん
・第三講義 講師未定

◆第六十九回 四月十五日(木) 十三時〜十六時半
・「坐禅儀」をめぐって
金沢文庫学芸員 道津 綾乃 先生

・『中世鎌倉のまちづくり』を出版して
東京大学史料編纂所教授 高橋 慎一朗 先生

◆第七十回 五月十三日(木) 十三時〜十六時半
・大徳寺伝来「五百羅漢図」の世界
金沢文庫学芸員 梅沢 恵 先生

・仮名法語(白雲慧暉撰)
『円迷能起(ゆめのき)と禅律僧
慶應大学斯道文庫准教授 高橋 悠介 先生

◆第七十一回 六月十日(木) 十三時〜十六時半
・建長寺二世 兀庵普寧の語録を読む
法政大学講師・建長寺研究員 彭 丹 先生

・将来の鎌倉観光——文化財公開の立場から——
東京国立博物館 浅見 龍介 先生

◆第七十二回 七月八日(木) 十三時〜十六時半
・佐賀県に残る臨濟禅・白蓮・八幡・時頼伝説
鎌倉期肥後国に於ける禅信仰
熊本中世史研究会幹事 青木 勝士 先生

・鎌倉期肥後国に於ける禅信仰
熊本中世史研究会幹事 青木 勝士 先生

・建長寺調査員 鈴木 佐 先生

・建長寺調査員 鈴木 佐 先生

・建長寺調査員 鈴木 佐 先生

※坐禅会と写経会、土曜講座は継続的に開催しています。

- 朝粥坐禅会……毎月第一日曜日 朝6時〜8時半 一日の始まりに坐禅。禅の食事の作法でお粥をいただきます 4/4 5/2 6/6 7/4
- 土曜坐禅会……毎週土曜日 子供:18時〜19時 大人:19時半〜20時半 静かに坐ると心が安定します。イス坐禅もあります。
- 彼岸早朝坐禅会……彼岸中毎朝6時〜7時。予約不要。鐘を撞いて、般若心経と一緒に読みながら坐禅します。3/17〜25
- 土曜講座……毎月一回の勉強会。13時〜16時 地域文化の共有と創造を目指し、地域伝統を後世に。
- 写経会……毎月1日、11日、21日、13時〜15時 般若心経の写経をしています。支度、片付けは全員で。自分のペースで一文字一文字丁寧に。
- 御詠歌……毎月第1・3火曜日 1時半〜3時 指導:高井淑子
- 手打うどん教室……現在2クラス開講中。月一回。講師:島田辰夫先生
- 木彫教室……毎月第1・第3土曜日 13時〜16時まで 講師:新井達矢先生 見学できます 仏像や能面を自分で彫ってみませんか? 月謝5000円(道具、材料費は要別途) 新井達矢先生ブログ:https://ameblo.jp/tapazya-1982/
- 俳句教室……毎月1回、適宜。問い合せ先:中野つたえ ☎554-2444
- 尺八吹禅の会……毎月第1、第3月曜 夜7時半〜9時頃 坐禅15分、練習60分、問い合せ:坂井陵童 ☎554-3273
- 介護予防体操……健康体操の集いです。直接、禅センターにお越し下さい 毎週金曜日14時〜16時
- お寺de……タロットによる心理セラピーです ハムサまで
- ころの相談 毎週日曜日13時〜18時 要予約 090-6792-4784
- 新聞サロン……毎月第2、第4土曜日13時〜14時 新聞を楽しく読んで世界を広げよう。活字から読む力をお子様の参加大歓迎です。要予約 090-6549-0751 講師:鹿野川喜代美さん ☎554-7343 まで
- 女性サンガの会・薬師講・寺子屋委員会・護持会——活動中です——
- 宗禅寺禅センターをお使い下さい。 ■各教室の会場:●は宗禅寺 ○は禅センターです

宗禅寺毎月の活動

お寺で新たな自分の発見を